

## コロナ禍における学生の主体的な学びを引き出す授業改善の取組

保健体育・日野克博

### 1. 授業の概要とねらい

「健康の指導法」は、幼稚園教諭の免許状並びに保育士養成コースにおける資格取得に必要な科目である。この授業では、幼稚園教育要領に示された健康領域のねらい及び内容を理解するとともに、幼児の発達に即した具体的な場面を想定した保育を構想する方法を身に付けることを目的としている。本授業は、1年生の前期に開講されるため、大学入学後に受講する専門的な学びの出発点となり、幼児教育への導入的な位置づけになっていることを意識して実践している。

### 2. 授業の取組とコロナ対応

今年度は38名が受講した(1年生23名，2年生以上15名)。本授業は、前期授業の開講方針に沿って、最初の2回は遠隔授業B(課題提示)，3回目以降は遠隔授業A(非同期型)で行った。授業に関する解説動画，解説資料，関連資料等はMoodleにアップやリンクして行った。表1は、その内容を示している。例年，附属幼稚園での保育実践を行っていたが，今年度は新型コロナウイルスの影響で実施することができなかった。

表1. 「健康の指導法」の内容

第1回	オリエンテーション
第2回	事前課題
第3回	幼児教育のねらい
第4回	健康領域のねらい
第5回	幼児期の運動発達
第6回	幼児期の運動遊びの大切さ
第7回	保育の実践事例1
第8回	保育の実践事例2
第9回	健康領域の保育(教師のかかわり)
第10回	保育実践(事例)の省察
第11回	健康領域の保育(教材づくり)
第12回	保育実践(動画視聴)
第13回	保育実践(動画)の省察
第14回	健康領域の保育(安全管理・安全指導)
第15回	まとめ

### 3. 授業の展開と工夫

本授業は遠隔授業A(非同期型)で実施した。学生の主体的な学びを引き出し，学習の質を確保するために，以下のような工夫を行った。

#### 1) 解説動画の活用

本授業では，毎時間の授業内容をパワーポイントに音声を入れて作成した。解説動画は，YouTubeで限定公開にして，Moodleにリンクさせた。解説動画の作成にあたっては，要点を明確にして，わかりやすく説明することを心がけた。1回の視聴の時間が長くなりすぎないように留意するとともに，動画のなかで学生が考える時間を設定するようにした。例えば，「〇〇を考えてみましょう」として，必要なら画面を静止して考えるように促した。

#### 2) 関連資料の配付

本授業では，授業内容に関連する資料(文献や資料)をMoodleにアップして，情報提供した。学生への過度な負担にならないように配慮しながら，特に，文部科学省や厚生労働省が提供している資料等を積極的に活用した。対面授業の際には配布していなかった資料等も提供し，解説動画のなかでも関連資料の説明や紹介を行った。そうすることで，学生の理解や発展的な学習を促した。

#### 3) 関連動画のリンク

新型コロナウイルスの影響で附属幼稚園での保育実践ができなかったことから，保育の具体的なイメージや実践的な課題をもってもらうために，保育の実践動画をリンクして視聴させるようにした。その際，文部科学省やスポーツ庁が提供している指導参考資料(動画)等を積極的に活用し，幼稚園教育要領や幼児期運動指針などの関連を図って視聴するように指導した。

#### 4) 学生コメントの相互評価

各授業のふり返りレポートや保育実践の視聴レポート、学生からの質問事項と回答などは、一つのファイルにまとめ、次時に資料として Moodle にアップするようにした。単に意見や感想を述べるだけでなく、他者の意見を読むことで多様な考え方に触れたり、自己の考えを見直す機会を提供した。

#### 5) 運動遊びの動画作成

学習した内容を踏まえ、幼児への運動遊びの紹介ビデオを各自に作成させた。幼児や保護者がみえることを想定して、家庭でもできる手軽な運動遊びの動画コンテンツ(約1分)を作成し、作成の意図や工夫した点などをあわせて提出させた。提出された動画を編集して、一つの運動遊び集としてまとめ、次時にそれを視聴させ、相互に評価させた。紹介ビデオの作成を通じて、実践経験とその省察を促した。

#### 4. 授業のふりかえりと学生の評価

まとめの授業(15回目)では、本授業の振り返りを行った。その際、成績評価には関係ないことを提示したうえで、次年度の授業改善に向けて学生に授業評価とコメントを記述してもらった。

「この授業を10点満点で評価すると何点ぐらいか」という問いに対しては、平均で8.9の評価になった。遠隔授業(非同期型)の授業であったものの、学生からは肯定的な評価が多くみられた。評価の理由として挙げられていた一部を紹介する。

- ・説明だけでなく、様々な動画も一緒にみることができたので、遠隔ですがとても学びは深まったし楽しみながら授業を受けられた。
- ・知識を身に付けるだけでなく、最後には運動遊びの動画を自分で撮影するなど、実際に運動遊びを考えて共有することもできた。
- ・動画視聴を通して幼児期の運動遊びの大切さや安全管理の仕方、子供との接し方などこれから役立てられることをたくさん学ぶことができた。
- ・受講生の疑問に沿って進められていた。実際教員になった時にすぐに活用できる知識が豊富だった。
- ・動画が多くて面白いと感じたが、一方であまり授業の内容が入ってきたとは思えなかった。
- ・動画の視聴が多かったが動画の解説なども欲しかった。

#### 5. 授業の成果と今後の課題

本授業では、遠隔授業(非同期型)で実施した。授業をする側、授業を受ける側にとっても初めての経験であった。毎時間、試行錯誤しながらの授業であったが、前述したような工夫を施し、学生の興味・関心を引き出し、思考・判断を促進するようにしたことで、学生からは一定の評価を得ることができた。今後も、新型コロナウイルスの影響によっては、遠隔授業での実施が求められる場合がある。今回の授業を通して、とくに、今後の授業改善にあたって、以下のような示唆を得ることができた。

##### 1) リアリティのある情報を提供する

本授業では、保育の具体的なイメージをもってもらうために、実践事例等の映像動画を多く活用した。直接保育や観察ができなくても、映像を用いることで学生はイメージをもちやすくなり、興味を引き出すことにつながった。なお、ただ視聴させるだけでなく、解説や説明などを通して伝えたいことを明確化させたり、意味づけることができればより理解が深まると思われる。

##### 2) 学生相互の意見交換の場を提供する

本授業では、学生のレポートをまとめ、次の時間に提示することで、他者の意見を確認できるようにした。学生からは、その工夫に対するコメントが多くみられた。遠隔授業の場合は、対話的な学習の機会が少なくなってしまうが、他者の意見や考えを知れる機会を提供することが、学生の気づきや発見にもつながることが再確認できた。

##### 3) 「やってみる」場を提供する

本授業では、自らのスマホ等をつかって紹介動画コンテンツを作成する課題をあたえた。協力したり、相談する仲間がいない人や機器操作が苦手な人にとっては、難しい課題であったかもしれないが、学生のコメントからは、一つのことをやりとげた達成感や実践を通して学びが深まったというコメントが多くみられた。アウトプットする機会をもつことで、学生自身にとっても学びを実感することができたと思われる。

これらは、授業改善のための有益な情報となる。遠隔授業(非同期型)であったものの、授業の工夫をすることによって対面授業に近い成果を得られることが確認できた。なお、学生からこういった意見がでてくるのは、学生自身が授業に真摯に取り組んでおり、より高い次元の学びを求めているからと言える。学生の意見を参考に、次年度の授業改善に活用し、今後も授業の質の向上に努めたい。